

# -거늘

～であるのに、～であるからには

古文調の逆接・理由です。叱責や訓戒の文脈で使われ、聖書や古典に現れます。

## ■ つけ方

| 状況     | 形      | 例        |
|--------|--------|----------|
| すべての語幹 | -거늘    | 하다 → 하거늘 |
| パッチム   | 関係なし   | 좋거늘      |
| 名詞     | (이)거늘  | 학생이거늘    |
| 過去     | -았/었거늘 | 했거늘      |
| 後ろ     | 叱責・反問  | 어찌 -느냐?  |
| 近い形    | -건만    | 残念さの逆接   |

## ■ -건만 どう違うか

古文調の逆接を示します。내가 그토록 일렀거늘 어찌 잊었느냐（私があれほど言ったのになぜ忘れたのか）。

건만 との違いは調子です。-건만 が残念さ・嘆きなのに対し、-거늘 は叱責・詰問。後ろに反問が来ることが多い形です。

理由の用法もあります。사람이거늘 어찌 실수가 없겠는가（人であるからには失敗がないはずがない）。「～であるからには」という前提の提示です。

聖書や古典で頻繁に見られる文体です。現代語では -는데도 や -(으)니 が対応します。

## ■ 例文

- 1

여러 번 일렀거늘 어찌 듣지 않았느냐.

何度も言い聞かせたのに、どうして聞かなかったのか。
- 2

이치가 그러하거늘 달리 볼 것이 없다.

道理がそうであるのに、別に見るべきものはありません。
- 3

누구나 아는 사실이거늘 새삼 물을 일이 아니다.

誰もが知る事実であるのに、改めて問うことはありません。
- 4

그토록 애썼거늘 어찌 이런 결과가 나왔는가.

あれほど努めたのに、どうしてこんな結果が出たのか。
- 5

손수 만들거늘 어찌 값을 따지겠는가.

手ずから作るのに、どうして値を論じようか。
- 6

뜻이 굳거늘 무엇을 더 말하라.

志が固いのに、これ以上何を言おうか。

## ■ 紛らわしいもの

- 건만

残念さや嘆きの逆接です。거늘 は叱責や詰問です。

했건만（残念） / 했거늘（叱責）
- (으)ㄴ즉

古文の接続で発見や理由を示します。거늘 は逆接が中心です。

본즉（発見） / 했거늘（逆接）
- (으)ㄴ/는데도

現代語の逆接です。거늘 は古文調です。

했는데도（現代）

## ■ まちがえやすい点

- ✕ 학생거늘

○ 학생이거늘

名詞には (이)거늘 をつけます。
- ✕ 했거늘 좋았다.

○ 했거늘 어찌 잊었느냐.

後ろには叱責や反問を置きます。
- ✕ 친구야, 말했거늘.

○ 친구야, 말했는데도 왜 그래.

日常会話では使いません。